

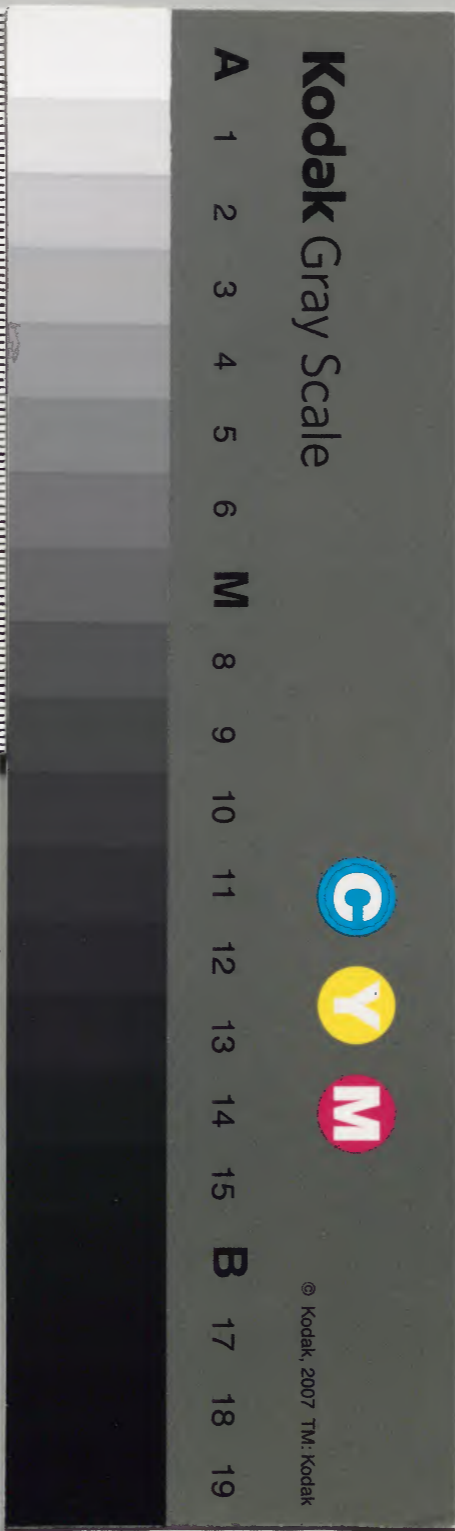
語林類纂

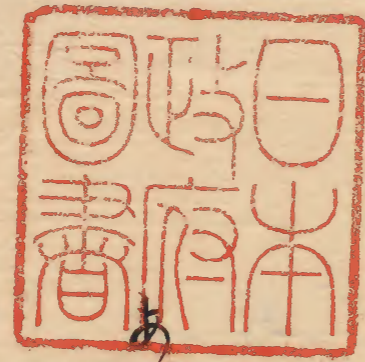
庫	文	閣	内
二 三 函		三 六 七 一 九	和 書
二 架	二 冊	九 號	類

庫	文	閣	内
二 函		三 六 七 一 九	和 書
二 架	二 冊	九 號	類

内閣文庫			
番號	和	36719	
冊數	20 (1)		
函號	208	29	

208-29





類聚卷之一



清久瀆臣輯

阿行
あゆの郊

二言

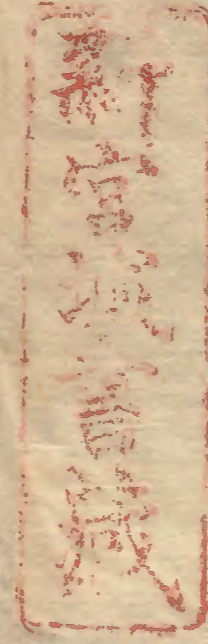
疑辭之。今ハエト云

源氏若菜上きりしにみるおほしきとあり

とのふふまきかきり○

あ—菜 愚

三条のあ—宰相 家政 続世継 〇あ—法眼



508-5a

曾丹集三而六十首中二月終
あまのこころに
あまのこころに
あまのこころに
あまのこころに
あまのこころに

あま

あまのこころに
あまのこころに
あまのこころに

類史 天長八年十二月替賀茂内親王其辞
曰云 皇大神乃阿礼乎止賣尔内親王齡毛云
代尔^{ヤリ}_{トキ}子女王乎卜食定互○三代實録世貞觀
十九年二月廿四日賀茂神社内親王を定め
多^タ告文に教子内親王乎卜定天阿礼乎度女
尔進状乎云云○本居云あまの奉仕をいへる言なり

○万一 藤原之大宮都加倍安礼衛哉^武處女之
友者之吉^呂 賀^呂 聞○万六 長哥 八十年尔安礼衛
之^下天下所知食跡○本居氏云つ之は阿礼乎
あまのこころに

貫之集三
あまのこころに
○六帖^社 同○夫木^ハ 初句 夫木^ハ あまのこころに○

あま
最木^上 考馬^主 志
あまのこころに
夫木^セ 二久安^而 首 花園^大 家^小 大連
春^ふ あまのこころに

アツカ

あまのついでにさきかきとほのむらさき
あまのついでにさきかきとほのむらさき
あまのついでにさきかきとほのむらさき
あまのついでにさきかきとほのむらさき
あまのついでにさきかきとほのむらさき

夕菜

あまのついでにさきかきとほのむらさき

あまのついでにさきかきとほのむらさき

催馬楽我門

古今

あまのついでにさきかきとほのむらさき

○

あまのついでにさきかきとほのむらさき

あまのついでにさきかきとほのむらさき

あまのついでにさきかきとほのむらさき

あまのついでにさきかきとほのむらさき

あまのついでにさきかきとほのむらさき

あまのついでにさきかきとほのむらさき

あまのついでにさきかきとほのむらさき

大将ヲアヤニ
ハセトクヘリ
海取古事 〇子侍大納言 頭雅六

ノオホイ殿
ノ御子
続世継〇 越前侍従家隆 拾遺是草

〇堤中納言兼補 拾遺是草 大和物語往々有

〇五條三位後成 〇〇の宰相御兼 〇宮毗

羅大将八条大 大鏡二〇〇の〇 〇〇の〇

改名資基 袖中二 夕夕の袋中了 〇〇の〇

〇扇中納言忠補 〇〇の〇 〇〇の〇

〇南助南大納言 〇〇の〇 〇〇の〇

女詩 〇袋中子引抄 千九記云 大伴高 称佐 千九

妻字奈刀自 〇廣幡中納言 頭光 〇〇の〇 〇〇の〇

〇〇の〇 〇〇の〇 〇〇の〇 〇〇の〇

〇〇の〇 〇〇の〇 〇〇の〇 〇〇の〇

〇〇の〇 〇〇の〇 〇〇の〇 〇〇の〇

〇〇の〇 〇〇の〇 〇〇の〇 〇〇の〇

〇平治物語大の〇 〇〇の〇 〇〇の〇 〇〇の〇

〇〇の〇 〇〇の〇 〇〇の〇 〇〇の〇

〇〇の〇 〇〇の〇 〇〇の〇 〇〇の〇

成人之道也 〇菅三 〇三耀三善 〇文琳文

東 ○万歳 匡房 ○う川保祭使 とうきふか とうきのぶ

又みくしとくまき 勸學院學士 ○とうのものと

の入道 中納言 統世継 堀川の ○万十六 三 有吉田

連老字曰石麻呂 ○万 大伴高称田主字号

仲郎 ○素性集そせいあきれをきくしとつげまふふ

に 袖中抄素性ハ石上良因院仍寛平法皇宮藏遊

中子云素性住石上良因院仍寛平法皇宮藏遊

覧間号之良因 ○字治拾遺 二 三 あきれをかほす

○冥異記 字曰山田三郎 ○同下 三 先祖造寺

有名草郡能成村名曰弥勒寺字曰能成寺也 ○

同下 三 有一自度字曰伊勢沙弥也 ○今昔十

二 三 糸 現光寺ヲハ竊寺トハイフ△仰中納言 志

江談三 ○田ナリ弁 惟成 同上 ○船路君 源道清

同上 ○大法會師子 隆 同上 ○小藏親王 兼明

同上 ○あまはら大納言 宗通 統世継 をむねの糸 ○丁

系中將 むねのふ 女將 あきのふ 統世継 あきのふ ○源

女 あきのふ 統世継 あきのふ の院 あきのふ

あきむ

源氏竹川はるはるいもあきのふとをいとおふはるはる

あきむ 丁十一 三十一

○經信卿母集さきいいうぬのさしあうけのさしあ
しきんとあさびあさる法もさえあう

あざみ

う川保

さうや

まのりぬいであさる○源若菜下々

ろ川のまのりぬいであさる○水鏡中ぬいであさる

○同ぬいであさる○

あざみ 足駄

う保

さうや

まのりぬいであさる○源若菜下々の

あざみ

ハ小袴まごあざみささる杖をつまご○同 御着裳ハ
十三ウ

○下学集履 又云足 駄也 ○今昔廿二廣澤云高足駄

ヲ履ヲ杖ヲ突テ○盛衰記五受領ノ鞭ヲ取朝

夕ニ覽ノ直垂ニ繩緒ノ足駄ハキテ○同十五

頭カラケ弓打切杖ニツキ平足駄着テ○同十

八指繩緒ノ平軟ハキテ文覽○

あざみ

壬二集下廿二ウ

林葉五 失返事哀

年閏八月十五日朝下飯御座前西壺分万
有前裁合○紀畧一延喜元年八月廿五日
有前裁合事○詞苑

紅葉

万代秋下天曆九年閏九月内喜行葉合の事

箱

伊勢集小箱合

扇

天禄四年七月七日扇合 拾遺雜秋
大后云の扇合に○夫木廿五寛治三年八月四日
○云扇合奇詭人不知○金葉秋太皇太后云扇合經信

而和香

永保三年准后倫子家侍而和香合哥 夫木

物語

後拾遺一五月廿四日六条宮御院小御所合一
○兼元 後拾遺
○ 後拾遺

紅梅

高芝集

くさき物

源氏梅枝

梅花白紅

梅冬川の物語梅花志るるききあはせ侍りしに
紅のききし○

下文再出
草子

從二位多原親子 家の草子合に時ををまゝ。顯李。金葉
○金葉意上從二位多原親子 家の草子合に 意のさうを
法寛師

兼 寛平兼合

いれさうのい 金葉

種 今昔廿八世五 後一葉ノ院ノ天皇ノ御代ニ殿上人
藏人直ル 限算ヲ尽シ種合セ為ルナリ有ケリ
ルヲ合

女郎花 古今物名未萱院 即專のをもりく一あせの時にもこれ
下りしつゝいれも一を向のりらにわくをさすよ

上文已出
雙紙 東鑑廿一 建曆三年三月十一日甲寅幕
府女房等有雙紙 合會將軍家令判之給○

引 中務集中云の引れあせに 引れあせの引れあせに
引れあせの引れあせに 引れあせの引れあせに

今様 而練杖云兼安四年九月二日於太上天皇
御所法住有今様合事權定堪能輩世人十
五箇夜間毎夜一番被決唯雄師長資賢等
卿為判者十三日仙洞今様合之次有御遊
上皇令歌今様給希代之美談也

鳥 和名 關難波止利阿 ○兼尾の尾ナシ 於御前有關難
車十番為限 ○紀畧二天竺元年三月四日於御前有關難

貝 袋中子云應保二年三月三日昇殿未十三日
中宮御方可有貝合車仍俄所仰下也

あほえ 假字拾遺

源柳おほいしほほまをのこも あほえは信

〇狹衣三中四十三 あほえ〇源竹川十四 〇同篇
木九十二 〇

あは 西岡

五代良三 清慎公
あはしにもくく ちくまのち ちかひのち ちかひのち

あん 葉〇今俗にちくまのち ちかひのち ちかひのち

中務内侍日記 〇同書

〇源

〇源

〇源

同日 神楽の舞 神楽の舞 神楽の舞
拾遺物名 おーああ

あまのこ

万代家 巻巻法師

神楽の舞 神楽の舞 神楽の舞

新六の如く 為家

神楽の舞 神楽の舞 神楽の舞

現六

夫木世二 流人不知

神楽の舞 神楽の舞 神楽の舞

射垣集異本

神楽の舞 神楽の舞 神楽の舞

久安而首 崇徳院

神楽の舞 神楽の舞 神楽の舞

夫木春二

北院御堂集

神楽の舞 神楽の舞 神楽の舞

林葉集

神楽の舞 神楽の舞 神楽の舞

東鑑世五 有棲河黄門の袖中掛アリス川

あまのこ 泡緒 俗語記

万四 五十五

神楽の舞 神楽の舞 神楽の舞

伊勢物語

神楽の舞 神楽の舞 神楽の舞

枕草子

神楽の舞 神楽の舞 神楽の舞

十載

三

換衣一下十三 人の世にあらざるありあけの
見あせし遊糸日記のあめけ
源東屋あ
あめ人のあめ
ルオク三真ヲ音便する人の
十

あらうあ 關加柳

高野日記あらうあめ人のあめ
源氏鈴虫あらうあ
あめ人のあめ

あめ人

アカラサマノアカラサオナミク一才ヨクメヲウカウ

子の大和百五十九 あらうあめ人のあめ

全葉林徑信

大井川六帖橋あらうあめ人のあめ

今昔廿七世一 白地目ヲセス守ト〇統紀廿六

天應元年 安加良米佐 禎如事久〇景行紀不意

之間倭 亡我子〇本居氏云思カケズニハカ
ナルトニテニハミモ目ヲハナタヌ事ヲアカ

あまのけ 浅排

順集

あまのけ 浅排 〇

あまのけ 朝跡

保憲女集

あまのけ 朝跡 〇

あまのけ 足形

あまのけ 足形 〇

あまのけ 中務内侍日記人長

あまのけ 中務内侍日記人長 〇

あまのけ 遊士

保憲女集

あまのけ 遊士 〇

あまのけ 新の愛惜紀

拾遺四

あまのけ 新の愛惜紀 〇

あまのけ 新の愛惜紀 〇

あまのけ

修理ニケルニ麻柱ヲ結テ畧麻柱其結タル中
 ニ立廻テ畧麻柱ノ上様ヲ見ル程ニ麻柱ノ中
 ニ落迫テリテ畧麻柱ニツメラレニケル也畧
 麻柱ニ蹴ツノラレテ○同廿五ニ麻柱ヲトヲ
 結テ下スヘキ方モナキ峯ナレハ○古本今昔
 十回玉造而丈石卒此エノ未夕卒堵邊ノ上ニ
 堵邊擬殺エ語有ル取ニ不可下ニテ麻柱ヲ一度ニハテト
 今壞メツ○玉勝間

あゝ〜さ

和名亭 アハハ 〇き保 アハハ 家のあゝ〜はた

格遠雅林 母志

枯風 アハハ 家のあゝ〜はた

家集二句はあゝ〜はた

結句 いうま

源川集 七月朔日 家のあゝ〜はた

源東屋 あゝ〜はた 家のあゝ〜はた

同 同 あゝ〜はた 伊勢物語

あゝ〜はた 不溢 おちあつた条々考

源 玉 あゝ〜はた 河孝經云満而

〇 百十九食国之四方之人字母安夫た波

あゝ〜はた
あゝ〜はた
あゝ〜はた

受賂賜者アツルの溢同語 ○又アツル = 同こと 部考 ○

あふさく

万八

同上

畧解ハウ世六

あふさく

あふさくは人のあふさくをいふ

あふさく

あふさくは人のあふさくをいふ

あふさくは人のあふさくをいふ

印本にあふさくは

ハ古本に

○あふさく

又あふさく

あふさくはあふさくをいふ

あふさくはあふさくをいふ

あふさくはあふさくをいふ

あふさくはあふさくをいふ

あふさくはあふさくをいふ

あふさくはあふさくをいふ

あふさくはあふさくをいふ

あはう

保憲女集

あはうはあはうをいふ

あはれ...
和歌集...
あはれ...
源氏...
紫上...
○江次...
あはれ...
あはれ...
あはれ...

あはれうは 素彩

長明無名下 近体古体論

あはれ... ○

あはれ...
あはれ...

あはれ...
あはれ...

月詠集序あはれ...
あはれ...

○同難上あはれ...
あはれ...

続詞苑戯嘆 多京経橋

小町集 延長...
あはれ...
あはれ...

山家集下 土才

全巻難下 能因

新古今神

あはれ... 泉昂

あまのこゝろ

十雜中 楊基長

あまのこゝろ

〇

五言

あまのこゝろ 我佛

あまのこゝろ

あまのこゝろ

仲文集

あまのこゝろ

あまのこゝろ

あまのこゝろ

あまのこゝろ

あまのこゝろ

あまのこゝろ

あまのこゝろ

あまのこゝろ

あまのこゝろ

拾玉三

あまのこゝろ

あまのこゝろ

後撰雜別 ミヅノミ

あひまきりし人のあはさばに

あゝの國へはうらまにきこふとて アカ 歎 イカリ 紀 イカリ 〇神

武紀 アカラサテ 儵忽之間出其不意 イツリノオモヒノカニ 〇雄畧紀 イカリ 嘆楮從草中

暴出 アハサセ 〇同取急歸家 アハサセ 〇同取假歸國 アハサセ 〇皇極紀 アハサセ 急

〇偷閑 アカラサテ 雲分往来 アハサセ 〇

あきめさ

秋宮ヲ林の原山をといふゆき

尚書會序清輔むく 林のまほむのすめらに

くらま

五代々 師取 のまに又そのいん 林のまほむのすめらに 朝ま

あきくも

保皇女集 うらまは 林のまほむのすめらに

あきまか 朝海

拾玉四 おほ 林のまほむのすめらに

あきくも

五代々 大政大臣 あきくも 林のまほむのすめらに 新六 玉を 志州のありあきくも 林のまほむのすめらに

源女 女はあはるきひりくひり 大まの 河尼額 ○

あまふ草 危草即離根草

源氏同 源氏

枕冊子三 廿五 あまふ草のきりきりあまふ人もけ

にものもしたけあまふ草 ○ 朗詠 觀身岸額離根

草 ○

あまふ草 荒神

源氏 總角 ぶらぶらあまふ草のきりきりあまふ草の神さつ

きりきりあまふ草 孟能園の枕の中をのぞく神さつ ○ 袂衣

一 下廿二 物のあはれあまふ草のきりきりあまふ草の神さつ

ふれもあまふ草 ○ 平家物語

あまふ草

山家集下 あまふ草のきりきりあまふ草のきりきりあまふ草の神さつ

同 あまふ草のきりきりあまふ草のきりきりあまふ草の神さつ

詞雜下 増基 朝のあまふ草のきりきりあまふ草のきりきりあまふ草の神さつ

拾玉四 法にあまふ草のきりきりあまふ草のきりきりあまふ草の神さつ

全葉雜下 不輕 呂のんそと 是雅法師 あまふ草のきりきりあまふ草のきりきりあまふ草の神さつ

竹取翁のあまふ草のきりきりあまふ草のきりきりあまふ草の神さつ

きしりのしきりあしきりかきり

夫木世四常不輕品時乃得聞是法華經

乃代を名めしり色みしりあしきりしきり

あしきり免 英行始

増鏡 老浪 八月のしりあしきりしりしり

せきり○隆信集歌 中納言親家あしきり子の

あしきり免にきり○拾遺愚草下世 中將 雅経

あしきりあしきりあしきりあしきり○

あしきりしり 和防己

拾遺意二 人きり

あしきりあしきりあしきりあしきりあしきり

古今

山 のあしきりあしきりあしきり

拾遺難意

あしきりあしきりあしきりあしきりあしきり

同物名 あしきり

余枚引孫姫式

あしきりあしきりあしきりあしきりあしきり

○

あしきり 青緑

拾玉三

あしきりあしきりあしきりあしきりあしきり

拾遺愚草上

あしきりあしきりあしきりあしきりあしきり

五代 相模
夫木世六
あはれはあそい

○

あはれはあそい

狭衣一上 世八

あはれはあそい

豊原統秋體源抄云丙辰記云人王廿八代安閑
天皇御宇教到六年 丙辰 駿河国宇戸濱に天人

あはれはあそい 周瑜の腰をさ
にして海岸の 春 廻雪の多もとあはれは江
浦の夕の風も 或前も 中
あはれはあそい 又は 中 東遊とて公家
にも 諸社も 行幸に 神明
あはれはあそい 通事氏
あはれはあそい 神中 世三
修持速神祇 能因
あはれはあそい 神中 世三

あはれはあそい

新六 あゝ衣 信美

まののえのあははのしよの無言ふまはしはのうはなは

○

あゝうまゝの 謎

後撰雜四あゝうまゝのしよの無言ふまはしはのうはなは

○ 袖中扱ハ ○ 袖の保 巻第の君 忘れ

ふまはしはのうはなは

あゝうまゝの

後撰雜四あゝうまゝのしよの無言ふまはしはのうはなは

ち男のしよの無言ふまはしはのうはなは

袖中之昔の無言ふまはしはのうはなは

袖中引吉

名かあゝうまゝのしよの無言ふまはしはのうはなは

精選雜表 あゝうまゝのしよの無言ふまはしはのうはなは

大和物語 下旬

あゝうまゝのしよの無言ふまはしはのうはなは

あゝうまゝのしよの無言ふまはしはのうはなは

あゝうまゝの

新勅撰 本則

いづれせんあはのちかきももくもく恨もなきはあはれ

六百番多合 兼宗

あはれあはのちかきももくもく恨もなきはあはれ

長秋詠草止

いづれせんあはのちかきももくもく恨もなきはあはれ

吟遊志草上

あはれあはのちかきももくもく恨もなきはあはれ

和訓栞

○臆断

○屋代イセ

百代文又

あはれあは

五代雜三 哀法大徳

いづれせんあはのちかきももくもく恨もなきはあはれ

新六あは 定信

異本拾五

いづれせんあはのちかきももくもく恨もなきはあはれ

山家集

いづれせんあはのちかきももくもく恨もなきはあはれ

あはれあは

後拾雜四いづれせんあはのちかきももくもく恨もなきはあはれ

難といふあはのちかきももくもく恨もなきはあはれ

あはれあは

散木夏五月廿東交ち夫ら美のちかきももくもく恨もなきはあはれ

あはれあはのちかきももくもく恨もなきはあはれ ○清輔集人のち

袂衣一 下世三

そめさき(き)さき(き)にみ(き)し(き)今(き)き(き)
道(き)袂(き)衣(き)
買(き)入(き)

八言

あまのりちさき

士佐日記

○保皇女集詞

あまの風

清慎集

あまのりちさき(き)あまのりちさき(き)あまのりちさき(き)あまのりちさき(き)

源(き)氏(き)集(き)

十二言

あまのりちさき(き)

五代春下

十三言

あまのりちさき(き)

源氏須磨あまのりちさき(き)あまのりちさき(き)

あまのりちさき(き)あまのりちさき(き)あまのりちさき(き)あまのりちさき(き)

あまのりちさき(き)あまのりちさき(き)あまのりちさき(き)あまのりちさき(き)

世ヲサササニ

